



発行所：みんなで政治を考える会  
〒615-0062 京都市右京区西院坤町2  
ケイハンシテイビル601  
TEL.075-315-2228 FAX.075-315-2310  
発行人：二ノ湯智  
国会事務所  
〒100-8962 東京都千代田区永田町2-1-1  
参議院議員会館632号室  
TEL.03-3508-8632 FAX.03-5512-2632

えとす(Ethos)とは、文化や習慣を意味し、豊かな精神をはぐくみ、平和を希望する言葉です。 題字：栢木寛照

# えとす

年間購読料 1,200円(一部100円)  
第3種郵便物認可 平成2年1月18日  
口座 01000-4-62360

平成17年 **11**月号  
No.174

京都の智恵を日本に活かす。  
二ノ湯智ホームページ <http://www.ninoyusatoshi.com>

## 郵政民営化反対議員の処分決定

### 二ノ湯議員、一年間役職停止

小泉内閣が進める構造改革の中で、最大の懸案であった郵政民営化関連法案。8月8日に開かれた参議院本会議で、自民党から22名の反対票が投じられた。二ノ湯議員もその一人であった。厳しい処分が下されるであろうと予想されていたが、10月28日の自民党党紀委員会、二ノ湯議員に対して、党の役職停止一年、但し執行猶予二年の処分が決定した。具体的には、今後二年間、新たに党則違反を犯さない限り、党の役職を離れる必要はない。普通に議員活動をしている中で党則違反を犯すことは考えにくい。従って、処分は有名無実であるように思える。除名や離党勧告を受けた衆議院議員の処分とは異なり、参議院議員に対する処分は、一部を除いて非常に甘いものだった。なお、二ノ湯議員は党紀委員会開催に先立って弁明書を森山委員長に提出した。

参議院議員 二ノ湯智 殿

自由民主党 党紀委員会  
委員長 森山真弓

#### 処分の決定について

党紀委員会は、本日、武部勤幹事長の要請による貴殿の処分審査を慎重に行い、全会一致で左記の処分を決定いたしましたので、ここに通知いたします。

#### 決定

党紀委員会は、貴殿を本日、党則第九十二条及び党規律規約第九条一項の規定により、「党の役職停止一年」の処分とする。但し、党規律規約第十三条一項により、その執行を二年間猶予する。

(理由)

一、平成十七年八月八日の参議院本会議における郵政民営化関連六法案の採決に際し、貴殿はわが党の方針にそむき法案に反対した。このため法案は否決されるという事態を招いた。この行為は党則第九十二条及び党規律規約第九条一項に該当する。

以上

## 弁明書

私は、30年以上の間、多くの特定郵便局長と親しくし、各種選挙でも大変御世話になりました。特定局では少ない職員で多くの業務をこなし、熱心な働きぶりには常々感心しておりました。郵政公社が4分社化されてさらに業務が増えれば、どのようにその業務をこなしていくのか、その疑念は払拭できませんでした。また、郵政公社になつてから、普通局の職員の対応も民間企業と比べても遜色なく、なぜ今民営化なのか理解できませんでした。せめて最初の中期経営計画の4年間は急いで民営化すべきではないと考えました。郵政民営化関連法案の「340兆円の個人金融資産の流れを官から民へ変える」という精神については十分理解できるものの、もっと慎重に時間をかけて議論を続ける必要があると判断しました。郵便局職員のみならず国民の大多数も、民営化には反対または慎重との考えだろうと判断し、民意を尊重する意味も込めて、先の国会では反対しました。参議院で法案が否決されれば衆議院解散との憶測が広がりましたが、多くの国民が郵政民営化法案に大きな関心を寄せていたために、郵政民営化の是非を国民に問うためにもむしろ解散の方がいいと思っております。そして、今回の採決では、民意に従おうと決意しておりました。自民党が大勝利を収めたため、特別国会の採決では、躊躇無く郵政民営化法案に賛成しました。小泉総裁は、改革のスローガンとして「中央から地方へ」を掲げておられます。これは、地方の創意工夫を生かす、地方の意向を出来る限り尊重することだと理解しております。しかし、郵政法案に反対した議員の選挙区に、党本部主導で対立候補を擁立しました。それによって、地方組織に大きな傷跡を残すこととなりました。その修復を急ぎ、地方の組織を立て直すことが、今後の自由民主党の課題であると考えます。

自由民主党党紀委員長 森山真弓 殿

## 二ノ湯議員、総務委員会で質問 「公務員給与改革」を求め

10月27日、公務員給与改革について審議する参議院総務委員会で、二ノ湯議員は自民党を代表して質問した。公務員給与については、「地域の事情にあわすべし」「民間並に引き下げるべきだ」「勤務実績を反映すべきだ」などの指摘があり、今回の改正案提出に至っている。質疑応答の概要は以下の通りである。

**二ノ湯議員**…日本の公務員は、難しい試験を突破した優秀な人材が多く、倫理的にも優れている。他の先進諸国と比べても、総人口に占める割合は高くないのに、「人数を減らせ、給与を減らせ」と言われ続けている。その根本的な理由は何か？

**麻生大臣**…公務員の割合は、フランス・アメリカ等よりも確かに低い。今回給与を減らすのは、公務員は税金で飯を食っているのだから、デフレが続く中で、今までの給与削減を更に進めて、民間企業並にしているということだ。

**二ノ湯議員**…経済財政諮問会議で「10年内に名目GDPに対する国家公務員の総人件費を半減する」としたが、そんな大改革をどう進めるのか？

**麻生大臣**…今後5年間の総人件費の削減目標を5%から10%に引き上げ、削減を加速することになった。「GDP比で半減」という表現は、印象は強いが、GDP変化を予測し難いので、GDPを基準にするの

は今後も検討しないとイケない。

**二ノ湯議員**…勤務実績を給与に反映させるとのことだが、公務員の仕事はチームワークだから、個人の仕事ぶりを評価するのは難しい。どのように適切・公正な評価を実現するのか？

**人事院・山野給与局長**…今までも勤務実績が昇給に反映される仕組みであったが、成績不良について客観的な基準を定めるなど、これまでの勤務成績の判定基準の改善を進め、徹底を図りたい。また、昇給制度の運用に必要な評価も新たな評価制度に基づいて行いたい。



総務委員会で質問する二ノ湯議員

## 著しい投票所での 勤務手当の不平等 官民格差の是正を

自治体の行事は多くが住民による奉仕によって支えられている。しかし、住民が手弁当一つで協力しているのに比べ、自治体職員の手当は良すぎるのではないかとという批判がある。

10月26日の総務委員会で二ノ湯議員は、

最後に、先の総選挙を例に、次のような質問をした。

**二ノ湯議員**…選挙の投票所で作業をする公務員と地域住民の間に、仕事は同じようなものなのに手当に大きな差がある。10倍も差があるところもあると聞く。これは是正すべきだと思うが、大臣はどう思われるか？

**麻生大臣**…公務員の手当は法律の基準に従わなければならない。一方、地域住民の手当は特別経費なので、役所はなるべく低く抑えたい。だから格差が大きくなってしまふ。私自身もこの問題は知っているが、改善はなかなか難しい。

大臣が指摘した法律は、「国会議員の選挙等の執行経費に関する法律」である。財政格差に関わらず、全国どこでもきちんと選挙が行われるように、総務省がその時々物価や賃金水準を目安に3年毎に改訂する基準に従って、各自治体に執行経費が交付されるという内容である。

投票所での勤務に対する手当も、その基準に従って各自治体に支給される。総務省は、それでも二ノ湯議員が指摘する程の格差があるとすれば、地方自治体が、特別の手当が付く管理職以下の年配者を投票所に配属するか、あるいは独自に地域住民の手当を上乗せするしかない、と説明する。

選挙は、国民にとって最大の権利の行使である。行政に従事する役人は、手当の高い・低いに関わらず、中心になって、選挙を執行するのが筋だろう。しかし、現実には、選挙は地域住民の協力なしには到底実

施することはできない。また、昨今、給与の官民格差を是正せよとの世論も強まっている。そういう中で、たとえ法律に反していなくても、公務員と地域住民との勤務手当の格差があまりにも大きいことは、やはり問題であるし、ましてや、各自治体が、独自に公務員の手当を上乗せするようなことはあってはならない。

この問題をきっかけに、民主主義とそれを支える選挙に対する役所・役人のあり方をしっかりと考えていかなければならない。

## 自民党機関誌「自由民主」に掲載 二ノ湯議員の「サラリーマン時代」

毎週火曜日に発行される自民党機関誌「自由民主」に私のサラリーマン時代という連載記事がある。11月15日号に二ノ湯参議院議員が登場した。二ノ湯議員のサラリーマン時代は、昭和44年1月から46年12月までの僅か三ヶ年。それでも若い時であっただけに、この期間の色々な経験、体験は非常に印象的であり思い出も深いようだ。この原稿を依頼されたのは六月中旬頃であった。ところが、八月に衆議院解散という思わぬ事態が起り、本来は八月下旬に掲載予定が延び延びになり、11月15日号となってしまった。前の国会で二ノ湯議員は参議院本会議で郵政民営化関連法案に反対票を投じたために、制裁としてこの記事の掲載は取りやめになるのではないかとと思われるが、予定通りに原稿は日の目を見ることができた。(関連記事は三面に掲載)



第13回国際水理学会実行委員会のメンバーで(右から2人目)



《国立京都国際会館》

昭和十九年に京都市左京区に生まれまし  
た。少年時代から政治に興味があり、姉の  
話によれば、よく机に上がって吉田茂総理  
の演説のまねをしていたようです。京都府  
庁の視学官だった私の父は、戦後の一時  
期、末端の「戦争協力者」として公職から  
追放され、故郷の三重県いなべ市に移住。  
私も同市で中学一年まで過ごしましたが、  
なぜか人をまとめるのが好きで、小学生の  
時から級長を務めました。

その後京都へ戻り、市立西京高校へ進学  
してからは米国留学が夢となり、ケネディ  
大統領にあこ  
がれました。  
「諸君は国が  
何をしてくれ  
るかではな  
く、国のため  
に何ができる  
か考えてほし  
い」と述べた  
就任演説に非常に感動し、原文を読んで和  
訳を暗記したものです。

当時のケネディはまるで「救世主」のよ  
うな感じでしたが、日本の政治家では河野  
一郎氏が好きでした。官僚に対して毅然と  
したリーダーシップを発揮したからです。  
同三十九年に慶応大学法学部政治学科に入  
学した私は、築地本願寺で行われた河野さ  
んの葬式に参列し、焼香まで一時間ほど並  
んだことを覚えています。

大学を卒業して、新聞記者か国会議員の  
秘書を経て政界に進出したいと思っていま

## 職場で国際感覚を磨き米国へ遊学

### 人に負けない何かをつかむことが大切

したが、新聞社の試験に落ちて帰郷。当時  
所属していた「京都青年会議」の仲間の一  
人が、国立京都国際会館の館長秘書をして  
いた関係で、同館に三年間勤務することに  
なりました。それは、ちょうど大阪の千里  
丘陵で「日本万国博覧会」が開催されたこ  
ろで、同館ではさまざまな国際会議が連日  
のように開かれました。プレス担当だった  
私は記者たちにプレスリリースを配布した  
り、会議の段取りをしたりで忙しく、毎日  
残業、残業の連続でしたが、国内外の政治  
家や経済人、文化人が多数来館するなか

に甘え、カリフォルニア州のサクラメント  
市で約一年間ホームステイをしながら、ジ  
ュニアカレッジの特別聴講生として政治学  
を勉強しました。米国社会で見聞を広めた  
ことがきっかけとなり、帰国後に日米の高  
校生の交換留学事業を二十年ほど手伝いま  
した。

で、大いに国際感覚を磨くことができまし  
た。  
職場の雰囲気も明るく、当時の上司の湯  
浅敷子さん(現・ソロプチミスト日本財団  
理事長)に大変かわいがっていただき、鍛  
えられました。特にプロトコル、もてなし  
のマナーについて、会議場のいすの配置や  
国旗の並べ方、お客の送迎法まで細かく指  
導され、きっちり教えていただいたことが  
印象に残っています。

その後、前尾繁三郎先生の秘書として政  
界入りした私が、サラリーマン時代を振り  
返って思うのは、どんな職場や仕事でも一  
生懸命やれば必ず何か得られるということ  
です。そのためには命じられた仕事をこな  
すだけでなく、こ  
れだけは人に負け  
ないと思える何か  
をつかもうと努力  
すること。同僚や  
先輩に対しても足  
を引く張るのでは  
なく、常にライバ  
ル意識を持って接  
すればいい。どこへ行っても、そういう気  
持ちを持つことが大切ではないでしょ  
うか。

父親譲りの性格で、人の世話をするのが  
大好きな私は四十二歳で京都の市会議員に  
初当選し、地元の温かい支援に支えられて  
連続五回当選することができました。市会  
議長や自民党京都府連幹事長などを歴任す  
るなかで、地方の政治や行政を深く理解す  
るようになりました。京都国際会館でのサ  
ラリーマン生活は、そんな私の人生のスタ  
ートラインだったような気がします。

昭和四十七年、私はたまたま同館を案内  
して知り合った米国の大学教授夫妻の厚意

印象に残っています。

# 新春招福バスツアー 第19回 伊勢神宮初詣

- ◇旅行日 平成18年1月9日(月・祝)
- ◇会費 8,000円
- ◇昼食場所 賢島『宝生苑』
- ◇申込先 後援会役員または  
二ノ湯さとし京都事務所まで  
TEL(075)315-2228  
FAX(075)315-2310
- ◇申込締切日 平成17年12月15日(木)

一年間の幸福を祈願し、新たな気持ちで新年を迎える行事として、  
多くの方々のご参加をお願いいたします。

参議院議員 **二ノ湯さとし後援会**

## 第153回 みんなで歩こう湯歩会

- ・日 時：11月27日(日) 小雨決行
- ・出発時刻：午前8時30分(時間厳守)
- ・集合場所：四条河原町 阪急百貨店前
- ・コース：四条小橋→鴨川西岸→丸太町通→京都御所富小路口→仙洞御所→建礼門→梨木神社→迎賓館前→今出川広場→児童公園→中立売休憩所→九条家拾翠亭→烏丸丸太町解散
- 鴨川沿いに東山、北山を眺め、京都御苑は秋の紅葉が格別で仙洞御所や迎賓館はじめ御苑内の見事な紅葉と大銀杏はきれいな黄金色等、京の錦秋を十分に満喫して下さい。御苑内は殆ど土道を歩きます。皆さんのご参加をお待ちしております。
- 代表世話人 北村好司郎 ☎075-313-8758  
(当日)090-1140-4964

歩くことは  
健康の基本

## 第152回 みんなで歩こう湯歩会(参加者62名)



三宅八幡宮境内にて

### 身辺雑記

一、所が変われば選挙の文化も随分と違う。先日私の故郷三重県いなべ市の市会議員選挙に立候補する友人の応援に出掛けた。友人は当地の自民党支部長であるが、事務所には与党も含め民主党的の国会議員の撤文が張り出してある。与党も野党もあまり意識がないようだ。政党選挙が進んでいる京都では考えられない。

一、出陣式に私が来るといので、小学校の同級生が十人ばかり集まってくれた。候補者が街頭に出た後、しばらくお茶を飲み四方山話に花を咲かせた。現役を退き、年金をもらって百姓仕事をして、孫の守りという人が多い。自分もそんな年になってしまったのかと思つたが、いつまでも自分は若いという気持ちは持つていたいものである。

一、総選挙の後遺症は深刻である。今党費の徴収の最中であるが、もう自民党に入りたくないという人が多い。また先日京都府連の自民党政経パーティーが開かれたが、例年になく売り上げが良かった。国会議員の数が増えて喜んでいて、自民党の地方の組織に緩みが来ているのではないかと心配する。

一、先日、同僚議員に誘われて菊花賞の見物のために初めて淀競馬場に足を運んだ。当日の観客は約十四万近くのにほり、大変な迫力であった。武豊騎手が乗るデ

イーブインバクトの走りに私も興奮した。少し馬券を買ったが、素人ゆえにどれもこれも外れてしまった。

一、やっと特別国会が終了した。振り返れば一昨年の夏頃から公認問題、選挙準備と休む暇がなかった。一度ゆっくりと温泉にでも行きたいと考えているが日程の調整がつかない。政治家はこんなことを常に思いながら、一生を終えるのかもしれない。

### 「えとす」購読のお願い

月刊誌「えとす」は毎月一回の発行です。  
毎月ご希望の方は、郵便口座振替にて、ぜひお申し込み下さい  
年間購読料 1200円  
郵便振替口座 01000-4-62360  
口座名：みんなで政治を考える会

— お問い合わせ先 —  
二ノ湯さとし事務所  
電話 075-315-2228

ホームページを開きました  
<http://www.ninoyusatoshi.com>

### 「新政経懇話会」入会のお願い

「新政経懇話会」では、機関紙「えとす」の発行をはじめ、二ノ湯さとしの政治活動をご支援いただける会員を募集しております。是非、二ノ湯さとしの政治理念と主張にご賛同いただき、ご入会下さいますようお願い申し上げます。

新政経懇話会 年会費 1万円

入会申込・お問い合わせ先  
二ノ湯さとし事務所  
☎075-315-2228